

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/10/25

団体名	NPO法人大宮地区社会福祉協議会	活動タイトル	おかえりスタディー教室		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景		
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>私たちは、地域で子どもから高齢者まですべての住民に対して広く福祉活動をしています。コロナ禍になる以前から地域が地域としての機能がはたせなくなり、住民同士のつながりがなく、孤立する家族が増え続けていました。なにもなく過ごせているときは、つながりの必要性もありませんが、ひとたびパンデミックなどがおこり、社会の状況が急激に悪化すると、そのしわ寄せはたちまち地域の子もたちや高齢者にふりかかってくる。頼るところも、話を聞いてもらうこともできず、孤立する住民。やっとSOSをだせたときには、生死を分けるほどのところまできています。 途切れたつながりをもう一度つなくため、子どもたちの居場所づくりや学習支援、チームづくりなどを通して、子どもたちとまずは繋がり、子どもを中心として、再び地域が繋がりがあい活性化することを目指します。</p>		<p>おかえりスタディー教室のチラシと開催場所の入口</p>		
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>昭和37年に設立以来、子どもたちを地域の宝物として接してきました。 子どもたちを地域でみまもり、大切に育てることで、子どもたちも自分の生まれ育った地域に愛着をもち、地域のたくさんの住民と知り合うことで、社会には色々な人がいてみんなが同じ地域の住人として生活していることをしり、豊かな感受性を育むことができます。 コロナ禍以降特に学校の休校は子どもたちにとって大きなショックであり、そこから立ち直れていない子ども達が多数いる。孤立している子ども達や引きこもっている子ども達と何とか繋がりを持ち、寄り添い、支援したいと考える。</p>				
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>望ましい人的資源 スタッフは、基本的には地域住民と学生スタッフであるが、学生スタッフは、私たちの活動の中で育った子どもたちで構成している。学生といえど、色々な挫折や失敗を経験し、生きる力強さを持つ人材が望ましい。 望ましい物的資源 活動の拠点となる教室の老朽化が激しく、現状をどう維持していくかが課題である。雨漏りや和式トイレの使いにくさを気にしないでいい場所が必要。 望ましい資源 活動以前は週1回だったものが頃中になり週3回にしたところから人件費や部屋代がかさんでいるため、潤沢な資金の確保が必須である。助成金の切れ目のない申請や企業協賛・寄付が増えることが望ましい。 望ましい情報 子どもたちの口コミで広がり、順調に活動できているが、内容的なことを保護者に伝えきれていないこともあるので、保護者との連絡もスムーズに取れ、私たちとつながるようになることが望ましい。</p>				
■活動報告			■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
<p>おかえりスタディー教室などの子どもたちの居場所作りと学習支援事業について、子どもたちと一緒に学習したり話を聞いたりするスタッフのスキルアップ事業を実施した。まず初めに奈良県警察のスクールカウンセラーにお願いして「安全な下校の仕方」という講習を子どもたちと一緒に受け、その後スタッフのみで安全な下校を行うためにどのようにすれば良いか話し合った。安全が当たり前で実施してきた事業だったため、色々なところに危険が潜むことを再認識し、その後子どもたちと一緒に下校するなどして通学路の確認を行った。</p> <p>事業を円滑に実施するためボランティア同士の交流も行い、11月13日と3月26日にボランティアまつりを実施した。また、なんでも相談会も同時開催した。</p> <p>安全に子どもたちを見守るために個人情報の登録が必要だと感じたため、個人情報登録カードの作成とLINEお友達登録を行った。</p> <p>また、「反社会的勢力に対する基本方針」と「倫理規程」を作成し、スタッフに守秘義務誓約書の提出を求めるコンプライアンス宣言を行った。</p>			<p>おかえりスタディー教室は予定通り実施し、子どもたちとスタッフとも交流しながら学習面のサポートができた。登録カードとLINEお友達登録を実施することにより、急な連絡を保護者と取りやすくなった。また、開催時間の変更などもスムーズに告知できるようになった。</p> <p>ボランティアまつりは予定通り2回実施し、3月26日のボランティアまつりには560人の来場者があった。また、11月13日のボランティアまつり際には新たに3人のボランティアを獲得するに至った。3月のボランティアまつりを通じて4月のおかえりスタディー教室もスムーズに開催できた。</p> <p>なんでも相談会では、相談の内容が多岐にわたり、学校でのいじめの問題や子どもの障がいに関する相談などの深刻なものも見られた。いじめの問題はなかなか解決せず、年度をまたいで学年が変わって体制も変わらなければ解決に至らなかった。また、障害の相談については専門家に繋げた。</p> <p>ボランティア研修については奈良県警察のスクールカウンセラーによる研修と個人情報の取り扱いに関する研修を行った。また、コンプライアンス宣言を行った。</p>		
■事業を通じて得られたノウハウ			■望ましい社会状況を達成するための課題		
<p>「おかえりスタディー教室」は小学生の「居場所づくり」や「学習支援」を目的として活動していた。これまではその活動を充実させることばかりを目指していたが、本助成事業では組織が安定的に運営できるよう基盤の強化を目指した。まずは、日常的に子どもたちや保護者と接しているスタッフの見守る目を向上したいと思い、奈良県警察のスクールカウンセラーによる安全な下校の仕方に関するワークショップや食品衛生責任者の講習を受けてもらった。預かった子どもたちを当たり前のように下校させていたが、当たり前が決して日常ではないことを知った。日々安全に必ず帰ることができるように声掛けなどを行っている。さらに、スタッフが手分けして子どもと一緒に下校して通学路の確認を行った。</p> <p>また、子どもたちや保護者から相談があった時、速やかな解決ができづらい課題があった。相談を受けることにより、関係各所に必ず繋がらなければならなかったこと、それが奈良市子ども未来部子ども支援課や子ども育成課、奈良市教育委員会いじめ対策課、奈良市社会福祉協議会、はぐくみセンターなど他部署に渡った。一つの相談についてこれほどの機関と連絡調整をしなければならなかったことが分かった。また、一度連絡したからと言って事態が動くとは限らず、何度も連絡調整を行うことによって地道に信頼関係を築く必要があると分かった。このような経験から、相談を受けたスタッフが初動の段階でいくつかの対応策が頭に浮かぶこと、そこに関連する機関との繋がりを持っていることが必要と実感した。</p>			<p>活動基盤の強化を図ることにより、今まで考えていなかったような個人情報の取り扱いやコンプライアンス宣言を作成することになった。今後それをどのようにボランティアに浸透させていくべきかが課題と考えている。また、見守る目の向上についても、ボランティアひとりひとりの元々の素養が異なるため、画一的な研修で全てのスタッフのレベルアップができていないかの確認の方法を検討し決定できなかった。</p> <p>子どもたちの中でのいじめや虐待などを素早くキャッチするためには、スタッフひとりひとりのちょっとした気付きが大切と感じている。その気付きを持ったスタッフが多く地域に存在することが子どもたちの健やかな成長に繋がると思う。研修やワークショップを通じて繰り返し啓発することで、スタッフひとりひとりの中で、子どもたちを見守る目にどのような変化があったかを聞き取りながら確認していきたい。</p>		
■活動成果のアピールポイント（自由記入）			この1年間の活動を通じて	ボランティアの獲得とボランティアのスキルアップ	を達成しました。
■受益者の具体的な変化（自由記入）					
<p>おかえりスタディー教室に参加する20名以上の小中学生とボランティアスタッフひとりひとりが関係を築けた。</p>					